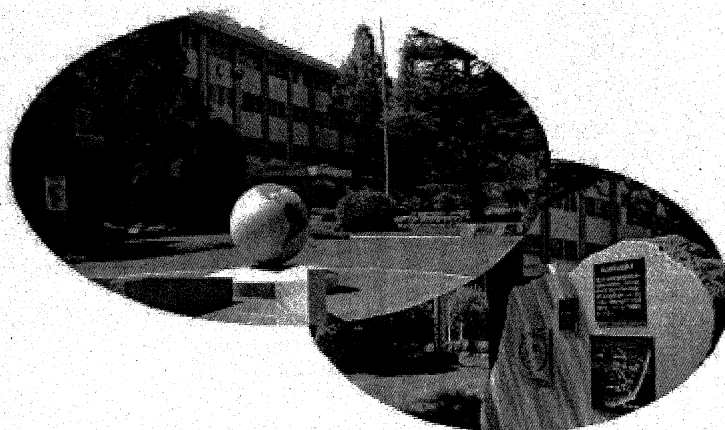


令和5年度

年間学習計画
【シラバス】



農業ビジネス科2年

令和5年度「言語文化」(2単位)年間指導・評価計画

授業担当等	農業ビジネス科2年	使用教科書	『新編言語文化』(東京書籍)
-------	-----------	-------	----------------

教科・科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を的確に把握し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。
 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

月	単元名・時数	育成する資質・能力 知識技能 [学習指導要領との対応]	思考・判断・表現[学習指導要領との対応]			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
指導事項・評価基準									
4	読む さくらさくら P10, 2時間	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みにつれ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。			(1)ア、イ	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	「桜に対するイメージや筆者について知っていることを発表する。2本文を連続し、三つの部分に分けて、それぞれの話題をまとめる。(手引き1)	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
5	●体育祭 読む 見のそら種 P122 古文学習のしるべ1 古文の言葉と伝る違い P124, 2時間	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。			(1)ア	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	歴史的伝る違いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。1本文を音読し、歴史的伝る違いに慣れる。(手引き1)「古文学習のしるべ1」2次の気持の変化を整理し、最後の手紙の意味について考える。(手引き2-3)	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
6	5月の続き ★考查								
7	読む デューク P107, 2時間	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。			(1)ア、ウ	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	「私」のデュークに対する気持を読み取る。(手引き2)「私」が「少年」と出会った経緯を整理し、「コーヒーをこぼさずさて。」とあった「私」の気持について考える。(手引き3)「少年」と通じた「私」の様子と気持の変化を読み取る。(手引き4)「少年」が言った後でもこちら動けなかった「私」の気持について考える。(手引き5)	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
9	7月の続き ★考查								
10	読む 柳あめりか【短歌】 P50 短歌の読み方 P53, 1時間	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。			(1)ア、ウ 読むこと (1)イ、ウ	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているもの、見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	短歌の読み方について理解し、学芸員に扮して、それぞれの歌に込められた情景や心情を読み取るようにしている。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
11	●農業祭 書く 【言語】短歌を作る P167, 2時間 ★考查	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。			(1)イ/12ア	「書くこと」において、自分の体験や思いの効果を伝えるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
12	11月の続き ●農業百首かるた大会								
1	読む 訓読の基本 P210 【言語】漢字の読みと意味——漢和辞典を活用しよう P218, 2時間	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。			(1)ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	漢和辞典の使い方を学び、漢字の読みと意味の関係について理解する。□中学校で学習した「論語」の漢文を音読し、高校での漢文学習への意欲付けを図る。 □「訓読」の導入文を読み、漢文とは日本語と日本語訳が異なるものであること、その漢文を日本語として読む工夫が「訓読」であることを理解する。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
2	読む 故事成語——三編【言語】 P220	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。			(1)ア、エ、オ	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	□中学校で学習した故事成語について、意味や背景を発表し合い、その学習を通して得たものを再確認する。 □知っている「故事成語」を答えさせ、その背景となる「漢語」を国語辞典等を使ってグループ等で調べさせる。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
3	書く 【言語】『三国志』の英雄 ポスターを作る P254 1時間	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。			(1)ア	「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料を効果的に組み合わせ、表現したいことを明確にしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	好きな人物を選び、調べて得た情報を的確に整理して、人物像が伝わるポスターを作る。□取り上げる人物を決めて、その人物についてのポイントや詳細などを調べる。(課題2) □集めた情報を整理し、キャッチフレーズを考えてみる。ポスターにまとめる。(課題3) □ポスターを読み合い、気づいたことを伝え合う。(課題4)	教科書、ノート、ワークシート、タブレット

令和5年度 「公共」 年間指導・評価計画	学年 2年	使用教科書	補助教材
	農業ビジネス科	公共（実教出版）	なし

学習の目標

○倫理分野	社会に参画する際に、選択・判断するための手がかりとなる見方・考え方を思考実験などを通じて、多角的・多面的に考察する。
○政治・経済・国際分野	「第1部公共の扉」で身につけた見方・考え方を活用して、法・政治及び経済に関する課題の解決策を考察する。また他者と協働して追求したり解決したりする。
○探求学習	地球環境問題など現代社会の諸課題を把握したうえで、その課題の解決に向けた合意の形成をめざし、協働的に考察・構想し、自らの考えを説明したり論述する。

指導計画及び評価方法等

月	学習項目	学習活動	評価基準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習にとりくむ態度
4	第1部 倫理・政治	・人間としての在り方生き方について理解させる。	知識・技能 小テスト、定期考査 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。	思考・判断・表現 定期考査、レポート、ノート ・他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し表現している。	主体的に学習にとりくむ態度 活動の様子の観察、レポート、口頭発表など ・社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
5	第1章社会を作る私たち				
6	第2章人間としてよく生きる				
7	第3章他者とともに生きる 第4章民主社会の倫理 第5章民主国家の基本原則				
9	第2部 1 憲法・政治・経済	・日本国憲法の成立過程や基本原理、社会が変化するなかで重視されるようになったさまざまな権利の・内容を理解させる。 ・労働問題等今日の課題を考察させる。	小テスト、定期考査 ・日本国憲法の基本原理について理解している。	定期考査、レポート、ノート ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し解決に向けて考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現している。	活動の様子の観察、レポート、口頭発表など ・日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
10	第1章日本国憲法の基本原理				
11	第2章日本の政治機構と政治参加				
12	第2部 2 経済 第1章現代の経済社会 第2章経済の特質と国民生活				
1	第2部 3 国際社会	・この科目のまとめとして社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める。	小テスト、定期考査 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し読み取り、まとめることができる。	定期考査、レポート、ノート ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について問いを見だし、協働的に考察・構想している。	活動の様子の観察、レポート、口頭発表など ・それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
2	第1、2章国際経済の課題				
3	第3部 持続可能な社会づくり				

【シラバス】年間指導・評価計画	学 科	単位数	使用教科書	使用副教材
長崎県立島原農業高等学校 令和5年度 2年 数学A	農業ビジネス科 2年	3	最新 数学I (数研出版) 最新 数学A (数研出版)	パラレルノート数学I+A (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目 標	数学I 数学A	図形と計量の知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
数学I	図形と計量についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創
数学A	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学的考察を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	主体的に学習に取り組む態度

2 学習計画と観点別評価規準 *以下、履修月はあくまでも目安である。

数学I 第4章 図形と計量

学習内容(配当時間)	時 数	学習のねらい	観点別評価規準		
			知識・技能 【評価方法】定期考査、小テスト、模擬テスト、パラレルノート	思考力・判断力・表現力 【評価方法】定期考査、小テスト、模擬テスト	主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】行動観察、課題提出
第1節 1. 鋭角の三角比	2	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	○三角比は、直角三角形の辺の比であることを理解している。	○三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。	
2. 三角比の利用	1		○直角三角形において、 $\sin A$, $\cos A$, $\tan A$ の値を求めることができる。		
3. 三角比の相互関係	2		○三角比の表を用いて、三角比の値や角を求めることができる。	○直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見るることができる。	○直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見るることができる。
4. 三角比の拡張	3		○三角比を使って、距離や高さを求めることができる。	○ $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ を三平方の定理として、とらえることができる。	○三角比の相互関係を調べようとする。

第2節 5. 三角比が与えられたときの角、研究	2	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	○鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。		○ $180^\circ - \theta$ の公式を利用できる。	○鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。	○ $180^\circ - \theta$ の公式を利用できる。	○座標を用いて、 θ の三角比の値から θ を求めることができる。	○直線の傾きと正接の関係を考察することができる。	○の三角比が与えられたときに θ を求める際、図を積極的に利用しようとする。	
第2節 6. 正弦定理	2		○正弦定理における $A=B=C=D$ の関係式を適切に処理できる。							○正弦定理の図形的意味を考察する。	
第2節 7. 余弦定理	3		○余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。							○余弦定理の図形的意味を考察する。	
第2節 8. 三角形の面積	2		○2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。							○三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	
第2節 9. 図形の計量	2		○3辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる。								
第2節 10. 図形の計量	2		○四角形を対角線で2つの三角形に分割して、面積を求めることができる。							○正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。	○日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。
第2節 11. 図形の計量	2		○正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。								

数学A 第1章 場合の数と確率

学習内容(配当時間)	時 数	学習のねらい	観点別評価規準		
			知識・技能 【評価方法】定期考査、小テスト	思考力・判断力・表現力 【評価方法】定期考査、課題提出	主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】定期考査、授業態度
1 集合	1	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。	○日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。
2 集合の要素の個数	2		○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。	○ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。
3 樹形図、和の法則、積の法則	3		○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	○日常的な事象に対して集合を考え、人数などを求めることができる。	○1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。
4 順列	3		○場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。	○樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。	○正の約数の個数を数えることに興味をもつ。

							の考え方が適用できるかを見極めることができる。	
	5.円順列と重複順列	3				○円順列の用語、公式を理解し、利用できる。 ○重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。	○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。
	6.組合せ	5				○組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○組分けの問題を処理できる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。	○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○特殊な条件が付く組合せを見方をええたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。	○組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
	第2節 確率	10						
	7.確率の意味	1	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。			○確率の意味を理解している。		○身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。
	8.確率の計算	2				○事象を集合で表すことができる。 ○試行や事象の定義を理解している。 ○確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。	○試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。 ○不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに数値的にとらえることができる。	
	9.確率の基本性質	2				○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。 ○事象の排反の意味を理解し、2つの事象が排反であるかを判断できる。		○和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。
	10.和事象の確率	2				○確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。 ○一般の和事象の確率を求めることができる。		○一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。
	11.余事象の確率	2				○余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。	○補集合をもとに、余事象を考察することができる。	
	12.独立な試行の確率	1				○独立な試行の意味を理解している。 ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。	○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。
	13.反復試行の確率	2				○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。	○具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。
	14.条件付き確率	3				○条件付き確率の定義、意味を理解している。 ○条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。 ○確率の乗法定理を用いて、確率を求めることができる。		○くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。
	15.期待値	1				○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めること		

						ができる。		
--	--	--	--	--	--	-------	--	--

第2章 図形の性質		学習のねらい	観点別評価規準			
学習内容(配当時間)	時数		知識・技能 【評価方法】定期考査、小テスト	思考力・判断力・表現力 【評価方法】定期考査、課題提出	主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】定期考査、授業態度	
第1節 三角形の性質	1.角の二等分線と比	3	12	○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○線分の内分と外分を理解し、内分する点と外分する点を図示することができる。 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	○証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。
	2.三角形の外心、内心、重心	3		○外心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。 ○内心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。 ○重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	○図形の性質を証明するのに、間接的な証明方法である同一法を適用することができる。	○三角形の3辺の垂直二等分線が1点で交わることの証明方法に関心をもつ。 ○三角形の3つの角の二等分線が1点で交わることの証明方法に関心をもつ。 ○三角形の3本の中線が1点で交わることの証明方法に関心をもつ。
	3.チェバの定理・メネラウスの定理、研究	3	1	○三角形の面積と線分の比の性質を理解している。 ○チェバの定理を用いて、線分比を求めることができる。 ○メネラウスの定理を用いて、線分比を求めることができる。	○チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ○三角形の辺と角の大小関係や、三角形の存在条件を理解している。	○三角形の面積と線分の比の性質の証明方法に関心をもつ。 ○チェバの定理の証明方法に関心をもつ。 ○メネラウスの定理の証明方法に関心をもつ。 ○身近な問題に対し、チェバの定理を活用できることを理解し、図形の性質に興味・関心をもつ。 ○三角形の辺と角の大小関係という、自明に見える事実でも、論理的に考察しようとする。
第2節 円	4.円周角の定理	1		○中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。 ○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあることを調べることができる。		
	5.円に内接する四角形	2		○円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○四角形が円に内接するかどうかを判定できる。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。

6. 円と接線	2	3	○円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	○円と直線の位置関係に3つの場合があることを理解している。	
7. 接線と弦の作る角	2		○接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。	○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。
8. 方べきの定理	2		○方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	○方べきの定理の証明方法を理解する。	○方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。
9. 2つの円	2		○2円の位置関係に5つの場合があることを理解している。 ○2円の共通接線について理解し、その長さを求めることができる。	○2円の位置関係を、動的な面から観察することができる。	○2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第2学年	
教科書	新編化学基礎(東京書籍)		副教材等	なし	

1. 学習の目標

- (1) 物事を理論的に考える力を養います。
- (2) 化学的に探究する能力を養います。
- (3) 日常生活との関連性を理解します。

2. 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい	評価の項目		
				知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学期	4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か	・化学と物質について、化学の特徴を理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・表現生活の中には多くの物質があり、化学変化を利用していることを理解している。	・物質の性質をもとに、分離の方法を考えることができる。	・身のまわりの物や製品について、友達と話し合いながらそれらはどんな物質できているという視点で考えようとしている。
	5	2章 物質の成分と構成元素	・化学と物質について、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・混合物から純物質を分離する方法を理解している。 ・炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解している。	・色素を分離する実験で、色素のような性質によって分離されたかを科学的に考察している。 ・炎色反応についての実験を行い、元素の種類を推測するなど科学的に考察しようとしている。	・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	・物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。 ・原子番号1~20までの典型元素の電子配置を理解している。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族と周期との関係について理解している。	・放射性同位体同位体について、どのように使われているという視点で考えようとしている。 ・アルカリ金属の性質を観察し、同族元素との関係性を表現する。 ・元素の周期律について規則性を見いだして表現している。	・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
	9	2編 物質の構成 2章 化学結合	・物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・イオンの生成や共有結合を電子配置と関連付けて理解している。 ・イオン結合およびイオン結合でできた物質及び分子でできた物質の性質を理解している。 ・金属の性質及び金属結合を理解している。	・金属とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 ・化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。	・イオン結晶についての実験を行い、イオン結晶やイオンの性質について考察しようとしている。 ・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
	10	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	・物質と化学反応式についての実験などを通して、物質、化学反応式のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・相対質量と原子量について理解している。 ・物質と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。 ・濃度について理解している。 ・化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。	・物質と粒子、質量、気体の体積について観察を行い、得られた結果を分析できる。 ・実験結果から反応物と生成物の比を求めさせ、化学反応式の係数の比と比較させることを通して、物質の比が化学反応式の比を表していることを見いだした活動を行っている。	・化学反応における量的関係についての実験を行い、化学反応式の係数が物質の比を表していることを見出そうとしている。 ・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
	11	2章 酸と塩基	・化学反応についての実験などを通して、酸・塩基と中和のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・酸と塩基の性質及び定義を理解している。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。 ・酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。	・酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見いだし表現できる。 ・器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。	・中和滴定の実験を行い、食酢の濃度を正確に調べるために、正しく器具を使い、科学的に考察しようとしている。 ・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
	12	3章 酸化還元反応	・化学反応についての実験などを通して、酸化と還元のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 ・酸化還元反応式の反応式について理解している。 ・金属のイオン化傾向について理解している。 ・電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。	・酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 ・電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。	・酸化剤と還元剤の反応を調べる実験を行い、それぞれの結果を化学反応式で表すなど、科学的に考察を行おうとしている。 ・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
第3学期	1	3章 酸化還元反応	・化学反応についての実験などを通して、酸化と還元のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。	・酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 ・酸化還元反応式の反応式について理解している。 ・金属のイオン化傾向について理解している。 ・電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。	・酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 ・電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。	・酸化剤と還元剤の反応を調べる実験を行い、それぞれの結果を化学反応式で表すなど、科学的に考察を行おうとしている。 ・この章で身に付いたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる。
	2					
	3					

授業担当等	農業ビジネス科2年	使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)
-------	-----------	-------	--------------------------

教科・科目の目標

(1) 合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けるようにする。
 (2) 豊かに運動を継続するための課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
 (3) 競争や協働の経験を通して、公正・協力・責任・参画などの力に加え、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全の確保や運動に生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

項目名	時間	知識・技能	評価方法	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 オリエンテーション	2	・学校での集団生活や授業について理解する。 ・公正・協力・責任・参画と意欲や態度の大切さを理解する。	①健康・安全の確保のための準備物(用具や服装)の点検	・あいさつ、返事や返答、聞く態度など多様な伝える力を表現する。	・準備物などの管理ができる。
2 体づくり運動	8	・学校生活に必要な体力や態度について理解する。 ・協働の楽しさや喜びを深くあじわう。 ・課題の動きを理解し正しくからだを動かす。 ・相手の動きに応じた基本動作から得意動作や連絡技、変化技を用いて攻防を展開する。 ・相手の構えを崩す素早い仕掛けやタイミングをずらした攻防を個人や仲間との連携でつくる。	②公正・協力・責任・参画について行動の分析 ③活動時の技能(授業での知識を理解した技能の分析)	・グループ内でどこに重点を置き練習を進めるかなど合理的かつ計画的な実践を行う。 ・自己や仲間の考えたことを伝える。 ・一人ひとりが自分の役割を理解・判断し、責任ある行動をする。 ・互いを助け合い高めようとする。	・個人や仲間との練習を通して試技回数を重ねながら意欲的に活動する。 ・学習内容に対して正しいフォームや位置取りなどを意識しながら取り組む。
3 選択E 以下の領域・種目より1選択 ・武道(柔道) ・球技 (ネット型:バドミントン/ ゴール型:バスケットボール/ サッカー)	8	・球技においても、わが国固有の文化である武道の相手を尊重する姿勢を重んじ、礼法を学ぶ中で人間形成に役立つことを理解する。 ・空間を埋めることやつくることで攻防を展開する。	④発言や記述の分析 ⑤聞く時の態度 ⑥活動時の態度		・コミュニケーションを学ぶ場ということを理解して、意欲的に他者と関わる。 ・わからない動作や説明に対して、教師や仲間質問したり調べるなど意欲的に活動する。 ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする。
4 体育理論 技能の上達過程と練習(復習) スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ	2	・自身の体力測定結果を把握し、補強運動での計画的な体力の高め方を理解する。 ・スポーツの変遷や文化としてのスポーツについて自分の言葉や文章で説明する。			
5 選択F 以下の球技種目より1選択 (ネット型:バレーボール/ バドミントン ゴール型:ラグビー)	10	・種目の特徴を理解してエリア内の人数の優位を考えた作戦などを用いた攻防を展開する。 ・基本動作から変化技など生涯にわたって運動を楽しむために多様な技の学習に挑戦する。 ・相手の構えを崩す素早い仕掛けやタイミングをずらした攻防を個人や仲間との連携でつくる。		・公正の中で自身の役割を判断し、行動したり提案したりする。 ・自分や仲間の考えていることを伝える。 ・自分や仲間の長所を生かすためにコミュニケーションを図ったり作戦を立てたりしたことを実践する。	
6 体育理論 オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果	2	・オリンピックとパラリンピックの意義やスポーツイベントと経済について自分の言葉や文章で説明する。			
7 選択G 以下の領域・種目より1選択 ・武道(柔道) ・球技 (ネット型:ソフトテニス/ ベースボール型:ソフトボール/ ゴール型:バスケットボール)	14	・相手の動きに応じた基本動作から得意動作や連絡技、変化技を用いて攻防を展開する。 ・相手の構えを崩す素早い仕掛けやタイミングをずらした攻防を個人や仲間との連携でつくる。 ・球技においても、わが国固有の文化である武道の相手を尊重する姿勢を重んじ、礼法を学ぶ中で人間形成に役立つことを理解する。		・用具の準備片付けをより迅速に行うよう協力して合理的に活動する。 ・安全に留意した練習エリアの活用と合理的、計画的な時間設定を判断し活動する。 ・危険を予測しながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保する。	

項目名	時間	知識・技能	評価方法	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8 体育理論 スポーツの高深さとドーピング スポーツと環境	2	・課題や具体例をあげて学習内容を説明する。 ・スポーツは環境とどのように調和していけばよいのか説明する。	①健康・安全の確保のための準備物(用具や服装)の点検	・公正の中で自身の役割を判断し、行動したり提案したりする。 ・自分や仲間の考えていることを伝える。 ・自分や仲間の長所を生かすためにコミュニケーションを図ったり作戦を立てたりしたことを実践する。	・個人や仲間との練習を通して試技回数を重ねながら意欲的に活動する。 ・学習内容に対して正しいフォームや位置取りなどを意識しながら取り組む。 ・コミュニケーションを学ぶ場ということを理解して、意欲的に他者と関わる。
9 陸上競技(長距離走)	10	・腕振りや力みのないフォームの習得で技能が高まるだけでなく、生涯にわたって運動に親しむ力が育まれることを理解する。 ・呼吸法やピッチ、ストライドを生かして自分のペースを維持して走る。 ・1周ごとのラップを分析し、自身の記録を伸ばす合理的な練習方法を考察し挑戦する。 ・自分のペースの変化や仲間のペースに合わせて走法の切り替える。	②公正・協力・責任・参画について行動の分析 ③活動時の技能(授業での知識を理解した技能の分析)		
10 選択H 以下の領域より1領域選択 ・器械運動 ・ダンス	12	・基本的な技や発展技から構成した演舞を短い時間で創作する。 ・決められた時間数で演舞を作り上げる中で合理的で計画的な方法をクラス内で協働し築きあげる。 ・役割分担をして、任された仕事を責任をもって行う。 ・決まったタイミングに合わせて、体をお手本通りに止めたり動かしたりする。 ・基本的な技や発展技の達成を通して運動の楽しさや喜びを深く味わう。 ・する見る調べる支えるの運動の関わり方の中で運営の部分を意識して活動する。	④発言や記述の分析 ⑤聞く時の態度 ⑥活動時の態度	・安全に留意した練習エリアの活用と合理的、計画的な時間設定を判断し活動する。 ・危険を予測しながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保する。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。	

授業担当等	農業ビジネス科2年	使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)
-------	-----------	-------	--------------------------

教科・科目の目標

(1)ライフステージと健康の関連について学ぶことでそれぞれが命の大切さを学ぶとともに各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。
 (2)健康を支える環境づくりについて学び、環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。

項目名	時間	知識・技能	評価方法	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態
保健編 3単元 生涯を通じる健康					
1 ライフステージと健康	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化、自分の行動責任や異性理解及び尊重する態度、及び性に関する情報等への適切な対処について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題や家族計画の意義や人工妊娠中絶の影響、結婚生活を健康に過ごすため知識や様々な支援、及び保健・医療サービスの活用について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・中高年期と健康における、個人や社会の取り組みについて理解したことを言ったり書いたりしている。 	①記述の点検 ②行動の分析 ③記述の分析 ④座学やアクティブラーニング時の態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容について、原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・学習内容について、整理したり関連付けたりして、課題解決の方法に応用している。 ・課題や解決方法を選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	学習内容について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 思春期と健康					
3 性意識と性行動の選択					
4 妊娠・出産と健康					
5 避妊法と人工妊娠中絶					
6 結婚生活と健康					
7 中高年期と健康					
8 働くことと健康	4	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人の健康における、個人や社会の取り組みについて理解したことを言ったり書いたりしている。 	同上	同上	同上
9 労働災害と健康					
10 健康的な職業生活					
4					
1 大気汚染と健康	8	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と健康にかかわる対策について、理解したことを言ったり、書いたりしている。 	同上	同上	同上
2 水質汚濁、土壌汚染と健康					
3 環境と健康にかかわる対策					
4 ごみの処理と上下水道の整備					
5 食品の安全性	3	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と人々の健康について、理解したことを言ったり書いたりしている。 	同上	同上	同上
6 食品衛生にかかわる活動					
7 保健サービスとその活用					
8 医療サービスとその活用	6	<ul style="list-style-type: none"> ・保健サービス、医療サービス、医薬品の制度、それぞれの活用について理解したことを言ったり書いたりしている。 	同上	同上	同上
9 医療品の制度とその活用					
10 さまざまな保健活動や社会的対策	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	同上	同上	同上
11 健康に関する環境づくりと社会参加	1	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が健康に関心を持ち、環境づくりに積極的に参加していくことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			

教科・科目の目標	
(1) 日常的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うことができる。	
(2) 日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり、文章の展開や聞き手の意図を把握することができる。	
(3) 日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。	

学期区分	課	知識技能 【定期考査で評価】	思考・判断・表現【英会話力・スピーキングで評価】			主体的に取り組む態度 【小テスト・提出物で評価】	評価の方法
			Speaking	Listening	Writing		
1学期中間	Get Ready 1～4	be 動詞・助動詞が適切に使用できる	自己紹介ができる。	単語の聞き取り	be 動詞を適切に使える。	自分の理解の度合いを見極め、質問できるか。	中間考査に代わる30点満点のテスト実施。
1学期期末	Lesson 1 Okinawa	be 動詞・一般動詞の現在形・助動詞が適切に使用できる	自分の行ってみたいところについて話せる。	リスニングテスト Team Teaching の授業内容の理解	動詞の現在形を適切に使える。	行ってみたい場所についてその理由まで考え表現しようとしたか。	中間考査後の範囲で、筆記・リスニングを課したテスト実施。
2学期中間	Lesson 2 The History of Japanese Food	be 動詞・一般動詞の過去形が適切に使用できる	自分の好きな食べ物について話せる。	リスニングテスト Team Teaching の授業内容の理解	動詞の過去形を適切に使える。	自分の好きな食べ物について、その理由まで表現しようとしたか。	7月～9月に学んだ内容で、筆記・リスニングを課したテスト実施。
2学期期末	Lesson 3 Volunteer Work	不定詞・受動態が適切に使用できる。	英会話力テストの実施。ボランティアについて話せる。	リスニングテスト Team Teaching の授業内容の理解	不定詞・受動態が適切に使える。	してみたいボランティア活動について話し、その理由まで表現しようとしたか。	10月～11月に学んだ内容で、筆記、スピーキング・リスニングを課したテスト実施。
学年末	Lesson 4 Gacha-gacha	SV00・SVOCの区別ができ、適切に使用できる。	好きなガチャガチャの景品について話せる。	リスニングテスト Team Teaching の授業内容の理解	SV00・SVOCが適切に使用できる。	ガチャガチャについてあったらうれしいものについて話せ、理由も表現しようとしたか。	12月～2月に学んだ内容で、筆記・リスニングを課したテスト実施。

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科	学年	第2学年	教科書	家庭基礎 (東京書籍)

教科・科目の目標

- 1 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて理解し、それらに係る技能を身に付ける。
- 2 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践や考察に基づいて生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 3 よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

育成する資質・能力		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法
学習内容	学習内容				
4 7 1 学期	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する	・自立した生活を送るために、生涯発達の見点からライフステージの特徴と課題を理解している。	・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を達成に向けた方法を考えることができる。		・ワークシート ・実験・実習 ・レポート ・小テスト ・定期テスト 等
	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解している。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解している。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解している。		・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとしている。	
	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもを育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を担うために、性と生殖に関する健康について理解している。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解している。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解している。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解している。	・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解し、子どもが健康やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えている。	・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について自分で情報収集実践しようとしている。	
	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	・超高齢社会の背景を理解している。 ・加齢に伴う心身の老化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深めている。	・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考えている。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や取り組み方を考えている。	・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。	
	ホームプロジェクト活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。		・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	
9 1 2 学期	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食料と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解している。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食中毒アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につけている。 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉えている。	・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる課題を適切に判断し、広い視野で食生活について考えている。		
	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服の入手方法 3 被服を管理する 4 これからの衣生活	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解している。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工についての科学的に理解している。	・社会生活を営むうえで被服の役割を理解し、用途に応じた着装を実践できる力を身につけることができる。 ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の観点で自分の衣生活を見直す。		
	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住居の要件を理解している。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康・安全な生活を行うような住居の条件を理解している。	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について課題を設定し、考えすることができる。		
1 3 学期	第9章 経済生活をつくる 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生活の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるように、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解している。 ・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解している。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解している。 ・消費者には権利と責任があることを理解している。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解している。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解している。	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、開設する力を身につけている。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるかを考えて実践しようとする。		
	第10章 持続可能な生活をつくる 1 持続可能な社会を目指して		・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。	
	第11章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする		・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるように、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるように、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	

項目名	規格・仕様	品質管理	検査項目	検査内容	検査方法	検査器具	検査条件	検査結果	検査担当者	検査日	備考	
											検査場所	検査時間
1. 検査対象品

教科・科目の目標

(1)社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解するとともに情報処理に関する知識と技術を習得する。

(2)農業の各分野で情報手段を活用する能力と態度を身につける。

(3)パソコンを使って基本的なソフト(ワード(文書作成))の使い方とその応用技術を学習する。さらに情報収集の方法としてインターネットの利用方法も学習する。

月	単元名・内容	時数	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
				多面的に考察すること	適切に判断すること	関りを知ること				
4	講義 情報社会における私たちの生活 実技 キーボードの操作練習	6	情報社会における私たちの生活について理解する。 キーボードの操作方法を理解している。		キーボードの操作方法を理解する。	情報社会において私たちの生活がどのようなか知っているか知る。	情報社会において私たちの生活がどのようなか把握し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	キーボードの操作練習	教科書p6
5	講義 情報とメディア 実技 タイピングの基礎練習(ミカタイプ)	6	情報とメディアについて理解している。 ミカタイプを利用しタイピングをできるようになる。		タイピングを正しくできるようになる。	情報とメディアがどのようなか知っているか知る。	情報とメディアがどのようなか把握し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	タイピングの基礎練習(ミカタイプ)	教科書p8
6	講義 情報社会とモラル 実技 速度(4級)文書作成(4級)	9	情報社会とモラルについて理解する。 速度(4級)と文書作成(4級)をできるようになる。	情報社会におけるモラルがどのようなものがあるか考える。	速度および文書作成を正しくできるようになる。		情報社会とモラルについてどのようなものがあるか調べ、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(4級)文書作成(4級)	教科書p12 ワープロ問題集
7	講義 農業を支える情報 実技 速度(4級)文書作成(4級)	7	農業を支える情報について理解する。 速度(4級)と文書作成(4級)をできるようになる。	農業を支える情報にはどのようなものがあるか考える。	速度および文書作成を正しくできるようになる。		農業を支える情報についてどのようなものがあるか調べ、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(4級)文書作成(4級)	教科書p20 ワープロ問題集
9	講義 コンピュータのしくみ 実技 速度(3級)文書作成(3級)	10	コンピュータのしくみについて理解する。 速度(3級)と文書作成(3級)をできるようになる。		速度および文書作成を正しくできるようになる。	コンピュータのしくみがどのようなか知っているか知る。	コンピュータのしくみを理解し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(3級)文書作成(3級)	教科書p26 ワープロ問題集
10	講義 データや情報の表現 実技 速度(3級)文書作成(3級)	12	データや情報の表現について理解する。 速度(3級)と文書作成(3級)をできるようになる。		速度および文書作成を正しくできるようになる。		データや情報の表現の仕方を理解し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(3級)文書作成(3級)	教科書p34 ワープロ問題集
11	講義 情報通信ネットワーク 実技 速度(3級)文書作成(3級)	10	情報通信ネットワークについて理解する。 速度(3級)と文書作成(3級)をできるようになる。	情報通信ネットワークにはどのようなものがあるか考える。	速度および文書作成を正しくできるようになる。		情報通信ネットワークにはどのようなものがあるか把握し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(3級)文書作成(3級)	教科書p40 ワープロ問題集
12	講義 インターネットのしくみ 実技 速度(3級)文書作成(3級)	9	インターネットのしくみについて理解する。 速度(3級)と文書作成(3級)をできるようになる。		速度および文書作成を正しくできるようになる。	インターネットのしくみを知る。	インターネットのしくみを理解し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(3級)文書作成(3級)	教科書p44 ワープロ問題集
1	講義 情報セキュリティ 実技 速度(準2級)文書作成(準2級)	9	情報セキュリティについて理解する。 速度(準2級)と文書作成(準2級)をできるようになる。	情報セキュリティにはどのようなものがあるか考える。	速度および文書作成を正しくできるようになる。		情報セキュリティにはどのようなものがあるか把握し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(準2級)文書作成(準2級)	教科書p52 ワープロ問題集
2	講義 情報表現のためのソフトウェア 実技 速度(準2級)文書作成(準2級)	10	情報表現のためのソフトウェアについて理解する。 速度(準2級)と文書作成(準2級)をできるようになる。		速度および文書作成を正しくできるようになる。	情報表現のためのソフトウェアを知る。	情報表現のためのソフトウェアにはどのようなものがあるか把握し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(準2級)文書作成(準2級)	教科書p58 ワープロ問題集
3	講義 文書の作成と表現 実技 速度(準2級)文書作成(準2級)	9	文書の作成と表現について理解する。 速度(準2級)と文書作成(準2級)をできるようになる。		速度および文書作成を正しくできるようになる。	文書の作成と表現の仕方について知る。	文書の作成と表現の仕方を理解し、自らの学習を調整しようとしている。 実技の取り組み。	①ノートの点検②記述の点検・分析③実技の記録	速度(準2級)文書作成(準2級)	教科書p62 ワープロ問題集

教科・科目の目標 (1)農業機械の取り扱いと維持管理に必要な知識と技術を習得する。 (2)機械の構造と作業上の特性を理解する。 (3)農業機械の効率的な利用を図る能力と態度を習得する。			
---	--	--	--

月	単元名・内容	時数	育成する資質・能力			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
			知識・技能	多面的に考察すること	適切に判断すること	関りを知る	多面的に考察すること	適切に判断すること				
4	農業の機械化 機械化の目的 機械の種類		農業の機械化を理解している。	現在の農業の機械化について、過去と比較して現状を知る。			農業機械に興味を持ち、その概要を知る。	農業機械に対して、進んで取り組むことが出来るように、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	日本の農業の機械化について、過去と比較して行う。	教科書 P 6	
5	機械の整備 整備用工具 測定用器具		機械の整備を理解している。				整備に必要な工具の使用方法を知る。	整備・測定することの必要性を理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	工具箱の各工具の名称と用途を調べる。	教科書 P189	
6	燃料と潤滑油		燃料と潤滑油を理解している。	燃料の性質による分類、特性を知る。				燃料の分類の必要性を理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	ガソリン・混合油・軽油・灯油・エンジンオイル・グリス等の実物を調べながら、特性を比較する。	教科書 P50	
7	原動機(エンジン)		原動機の仕組みを理解している。				原動機には燃料を必要とするものとモーターの二つに大きく分けられることを知る。	エンジンの仕組みを理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	バイク・自動車のエンジンと農業機械のエンジンの違いを比較して行う。	教科書 P12	
9	4サイクルガソリンエンジン		現在、最も多く生産されているエンジンであることを理解している。	弁機構で、大きく性能が異なる事を知る。				4サイクルエンジン、弁機構を理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	サイドバルブエンジン(空冷)の分解・組み立て(実技)	教科書 P13	
10	2サイクルガソリンエンジン		軽量化・高出力化出来るが、環境問題で消滅するエンジンであることを理解している。	構造が安易で、軽量化できるため、草刈り等のエンジンとして使用されている。				2サイクルエンジンを理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	草刈り機の分解・組み立て(実技)	教科書 P 2 9	
11	ディーゼルエンジン		大型の船舶やトラック・バスなどのエンジンであることを理解している。	多くの乗用トラックに搭載されていること、問題点を知る。				ディーゼルエンジンを理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	膨張工程がガソリンエンジンと異なるため、実際にトラックで燃料噴射が行われていることを知る。	教科書 P 3 4	
12	運転と調整 草刈り機 管理機		草刈り作業・管理機を理解している。				2サイクルと4サイクルエンジンの違いを知る。	運転と調整を理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	草刈り作業(実技) 管理機の操作(実技)	教科書 P 9 2	
1	歩行トラクタ 基本運転・操作		歩行トラクタの操作を理解している。	エンジン始動時の手順を知る。				歩行トラクタを理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	構造と各部品名 歩行トラクタ(実技)	教科書 P 9 3	
2	乗用トラクタ 種類 構造と機能 基本運転と操作		乗用トラクタの種類・構造と機能・運転操作を理解している。				運転時の安全確認を的確に行う。	乗用トラクタを理解しながら、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	草刈り作業(実技) 管理機の操作(実技)	教科書 P 6 2	
3	まとめ		農業機械が現在の農業に欠かすことのできないことを理解し、農業機械の知識を身につけている。				農業機械に関わる一般的な知識・操作方法について、基礎・基本を理解している。	学習の状況を把握し、自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	自己評価・まとめ		

教科・科目の目標

- (1) 植物バイオテクノロジーに関する基本的知識と基本的技術を学ぶ。
- (2) 植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を学ぶ。
- (3) 農業の各分野への応用について学ぶ。

月	育成する資質・能力	知識技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教科書
			指導事項・評価基準						
4 5 6	1. 基本操作と準備実験の心得 2. 実験器具の扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオテクノロジーの意義や役割について理解するとともに、関連する技術を理解している。 ・植物バイオテクノロジーに関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・実験器具の正しい使用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオテクノロジーの意義や役割に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 ・植物バイオテクノロジーの発展に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・バイオテクノロジーの意義や役割について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・植物バイオテクノロジーについて自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間考査 ・期末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの意義と役割について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・植物バイオテクノロジーについて自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	教科書 p.4 ～ p.24
9 10 11 12	3. 植物繁殖培養	<ul style="list-style-type: none"> ・単細胞生物と多細胞生物の違いや植物の特徴、植物の多様性を理解する。 ・植物の細胞分裂、植物の分化全能性と組織培養の原理、分化と脱分化に及ぼす植物ホルモンなどの役割を理解する。 ・植物体の構造と植物細胞の構造、並びにその機能を理解する。 ・植物の生殖の仕方や遺伝のしくみと遺伝子、育種の意義や遺伝子操作の原理を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物体や細胞、遺伝子の構造と機能について調査・検討し、植物の機能の利用について考察する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・植物体や細胞、遺伝子の構造と機能について調査・検討し、植物の機能の利用について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間考査 ・期末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物体や細胞、遺伝子の構造と機能について調査・検討し、植物の機能の利用について考察する。 	教科書 p.25 ～ p.44
1 2 3	4. 植物バイオテクノロジーの発展	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの特質と基本操作について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・植物の増殖能力の利用について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・無菌操作の育成、培養、馴化、根え出し、ウイルス検定などの一連の実験実習の知識と技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの特質と基本操作に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 ・植物の増殖能力の利用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 ・植物の組織培養に関する実験、実習を通して、培養植物体の発生と生育と光、温度、湿度、pH、空気などの環境との関係について考察できる。 ・組織培養が実用化されている野菜、草花、果樹、作物、樹木の繁殖、育種について、育苗、肥培、定植培養などの実習の効率化や種苗の大量生産に利用されていることを考察できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの特質と基本操作について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・植物の増殖能力の利用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの特質と基本操作について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・植物の増殖能力の利用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	教科書 p.49 ～ p.86
2	5. 発展 植物バイオテクノロジーの発展活動	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの発展について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの発展に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 ・課題を必要とする地域の地域活性化策、食料などの農業生産や環境問題及び野菜や果樹などの新たな植物体の機能生産や高付加価値品などのバイオテクノロジーの具体的な応用の実施について学ぶ。 ・バイオテクノロジーの発展の現状に関する課題を考察できる。 ・起業や社会貢献、バイオテクノロジーの発展的な活用など、幅広い視点をもって農業生産や食料、環境保全等に創造的に活用し、実践する学習活動に取り組む。 			<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジーの発展について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 			

教科・科目の目標

- 1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- 2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

育成する資質・能力		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
月	単元名・内容	時数	指導事項・評価基準				
4	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	8	果菜類における花芽の形成から果実の肥大までのしくみを理解している。	正常な花を着生させることができる。 果実を着果させることができる。	果菜類の果実の発育について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	果菜類の花芽分化と果実の発育 教科書P32～33
5	果実を利用する野菜の栽培 キュウリ他	6	果菜類の生育に適する環境条件を理解している。	各野菜の生育に適する温度、光、土と水等を管理することができる。	各野菜の環境条件の変化に対する対応について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	果菜類の生育に適する環境条件 教科書P70～72
6		12	果菜類の品種特性と作型を理解している。	作型に適したい品種の選定することができる。	各野菜の作型における品種の選定について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	果菜類の品種特性と作型 教科書P73～74
7		6	果菜類の栽培管理を理解している。	一連の栽培管理について、適切に行い収穫までできる。	各野菜の栽培管理について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	果菜類の栽培管理 教科書P75～79
9	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	14	葉菜類の花芽形成の条件やしぐみを理解している。	生育段階で、花芽分化させない作型、環境について理解している。	葉菜類の抽だいを起こさないため、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	葉菜類の花芽形成と抽だい 教科書P29～31
10	葉や花茎を利用する野菜の栽培 キャベツ他	12	葉菜類の生育に適する環境条件を理解している。	各野菜の生育に適する温度、光、土と水等を管理することができる。	各野菜の環境条件の変化に対する対応について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	葉菜類の生育に適する環境条件 教科書P146～148
11		6	葉菜類の品種特性と作型を理解している。	作型に適したい品種の選定することができる。	各野菜の作型における品種の選定について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	葉菜類の品種特性と作型 教科書P149～150
12		12	葉菜類の栽培管理を理解している。	一連の栽培管理について、適切に行い収穫までできる。	各野菜の栽培管理について、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	葉菜類の栽培管理 教科書P151～153
1	野菜の流通と経営改善	6	野菜の流通のしくみ、販売方法・鮮度技術を理解している。	各野菜を調製し、販売まですることができる。	野菜の販売方法について理解し、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	野菜の流通と鮮度保持 教科書P210～215
2	果菜類の栽培	6	イチゴの栽培管理を理解している。	一連の栽培管理について、適切に行い収穫までできる。	イチゴの栽培管理から収穫までについて、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	イチゴの栽培管理 教科書P133～136
3	学習成果のまとめ	6	プロジェクト学習のまとめができる。	座学及び実習を通して研究活動の成果を身につけている。	学習状況を把握し、その成果をまとめたり、発表している。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	自己評価・年間まとめ

教科・科目の目標

- 1)果樹の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- 2)果樹の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農産物産出に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 3)果樹の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展につながるよう自ら学び、農業の発展や社会に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

No.	単元名・内容	時数	育成する資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
					多面的に考察すること	適切に判断すること	開りを示すこと				
4	果樹の栽培管理	8		苗木の育成について理解する	苗木生産(繁殖)の特徴と方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える		①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート	
5	果樹の栽培管理	6		果樹園の間伐に必要な自然立地条件、経済的立地条件を理解する 果樹園の造成、苗木の植え付け方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える		①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解テストの振り返り【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
6	果樹の栽培管理	12		果樹の生育に適した土壌条件を知り、その管理方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える		①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
7	果樹の栽培管理	6		果樹の生育と施肥の関係を理解する 施肥量・時期・方法について理解する 果樹の生育と土壌水分含量の関係を理解する かん水の時期・量・方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える		①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解テストの振り返り【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
9	果樹の栽培管理	10		果樹栽培に受粉者や人工授粉が必要な理由とその方法を理解する 落果時期と原因、防止対策を理解する 摘定(摘い)と摘果の目的、時期、程度、方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える		①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
10	果樹の栽培管理	12		芽と枝の種類と構成を知る 異なる果樹の結果習性を理解する 日本における果樹の結果習性を理解し、その理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える		①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解テストの振り返り【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践 農業祭へ向けた取り組み	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
11	果樹の栽培管理	6		気象災害の防止について理解する 病害虫の防除について理解する	日本が発生しやすい気象災害とその防止対策について理解する 果樹を知識する主な病害虫の種類やその生態、防除方法について理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践 農業祭へ向けた取り組み	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
12	果樹の栽培管理	12		植物成長調節剤の利用について理解する 施設栽培と特殊栽培について理解する	植物成長調節剤の種類と作用について知る 日本における果樹の施設栽培の動向とその特徴を知る 多様な作型を知り、それぞれを理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解テストの振り返り【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
1	カンキツ類	6		栽培上の特性と品種について理解する 生育の姿と栽培管理について理解する	栽培上の特性と品種の現状を理解する 品種とその特性を知り、栽培目的に合った選び方を理解する 年間を通して生育の姿を理解し適切な栽培管理の実施時期とその方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
2	カンキツ類	6		収穫・選別・出荷・貯蔵と加工について理解する 種え付けや更新について理解する	収穫や出荷の方法、加工利用と流通の現状を理解する 圃地の整備、苗木の育成、種え付けや更新方法を理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		
3	カンキツ類	6		施設栽培について理解する 栽培の評価と経営計画について理解する	施設栽培の特徴を理解する 栽培管理と品質・収量の評価方法について理解する 栽培上の特性と経営計画の要点について理解する	専門教科に対して、果樹の知識(座学)や日頃の果樹の管理作業(実習・技術)を積極的に習得しようとする姿勢が見える	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	【座学】授業プリントの記入ICT端末を使った理解テストの振り返り【実習】実習手帳への記録実習内容の理解と実践	教科書 プリント ICT端末 実習手帳 レポート		

授業担当等	農文ビジネス科2年	使用教科書	「畜産」(実教出版)
-------	-----------	-------	------------

- 教科・科目の目標
- (1)ニワトリの形態や習性の特性を観察する。乳牛の形態や習性の特性を観察する。
 - (2)ニワトリの生理・生態的な特性を理解する。乳牛の生理・生態的な特性を理解する。
 - (3)ニワトリの増殖に關して、合理的な飼育管理や飼育環境を理解する。乳牛の増殖に關して、合理的な飼育や飼育環境を理解する。
 - (4)ニワトリの飼育管理と生産性、生産物の品質向上との関係を理解する。乳牛の飼育管理と生産性、生産物の品質向上との関係を理解する。

No.	単元名・時数	到達する見識(知識)	知識技能			主体的に学習に取り延む態度	評価の方法	主な学習活動	教科書
			多面的に考察すること	思考・判断・表現 適切に判断すること	関わりを知ること				
4	ニワトリの特性 乳牛の特性	8	ニワトリ・乳牛の基本的な特性について正しく理解しているか。	ニワトリ・乳牛の祖先から家畜として飼育された経緯について考察する。	体の構造を知るとともに生理的・特性および一生について理解する。	ニワトリ・乳牛の飼育を身につけるため、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	校内のニワトリの形態・習性の観察(ページ見、中間見)校内の乳牛の形態・習性の観察	教科書p74 教科書p152
5	ニワトリの品種と選び方 乳牛の品種と選び方	8	ニワトリ・乳牛の主要品種とその特徴について理解できているか。	ニワトリ・乳牛の祖先から家畜として飼育された経緯について考察する。		歴史や品種に因る特徴を持ち、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	ニワトリの歴史と用途別の品種の違いを調べる。乳牛の歴史と品種の違いを調べる。	教科書p80 教科書p156
6	施設・設備とその利用 酪農の施設・設備とその利用	12	産卵鶏舎・乳牛について、施設設備・飼育管理について理解できているか。		用途別の施設設備について理解する。	飼育方法について考え、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	校内の飼育状況を観察し施設設備を調べる。	教科書p82 教科書p160
7	繁殖の生理 乳牛の繁殖	10	ニワトリの性成熟や卵形成について理解できているか。乳牛の繁殖の仕方について理解できているか。		雌と雄の生殖腺と卵形成の生理について理解する。乳牛の雌の繁殖について理解する。	専門知識を学ぶため進んで取り組んでいる。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	ニワトリの解剖・観察乳牛の発情・分娩観察1学期まとめ	教科書p86 教科書p166
9	種卵～ふ化 子牛の育成	14	種卵の作り方、胚の発達状態およびヒナの選び方が理解できているか。子牛の育成について理解できているか。	種卵となる有精卵がどのようにして作られているか。また、その必要性を考える。子牛の育成の仕方、飼育環境、管理の仕方について、必要性を考える。		ふ化率の調整を行いながらふ化率が上がるように努力している。良い飼育環境の作り方やえさのやり方を身につけるよう努力している。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	ニワトリのふ化実験および飼育子牛の飼育管理	教科書p88 教科書p178
10	種卵～ふ化 乳牛の飼育管理	12	ヒナの発育に合わせた飼料の栄養、飼育方法が理解できているか。乳牛の飼育管理方法を理解できているか。	乳牛がどのように排出されているか。また、その必要性を考える。		種卵の調整を行いながらふ化率が上がるように努力している。販売されている牛乳について、試行錯誤するなど自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	ヒナの飼育観察種乳の仕方を学ぶ	教科書p92 教科書p176
11	産卵鶏の飼育管理 乳牛の病気と予防衛生	10	産卵鶏の日常管理とホルモンの刺激について、理解できているか。乳牛の病気とその対策が理解できているか。	産卵鶏が、多くの卵を産み続ける理由およびその必要性について考える。		販売されている卵について、試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしている。乳牛の病気について理解し、実習時の自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	育成率・産卵率調査。畜産保健所からの情報をもとに病気について調べる。	教科書p95 教科書p185
12	肉用鶏の飼育管理 酪農の経営	12	ブロイラーの日常管理と飼料給与法、および食糧の規格について、理解できているか。日本の酪農経営のおもな課題とその解決策を考えることができるか。	今後あるべき酪農の姿について考察を深めることができるか。	ブロイラーの発育と肉用鶏の価格や消費量について季節により異なることを知る。	産卵鶏と肉用鶏の違いについて、自らの学習を調整しようとしている。乳牛のおもな課題と解決策について学ぼうと自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	ブロイラーと産卵鶏の発育の違いについて調べる。日本の酪農経営と解決策を調べる。2学期まとめ	教科書p98 教科書p188
	予防衛生と検疫 乳牛の体尺測定と体型の評価	8	検疫の予防とその対策が理解できているか。乳牛の体尺測定と体型の評価の仕方を理解できているか。		乳牛の体尺測定と体型の評価の仕方を正しく理解する。	養鶏において伝染病がもたらす影響が多くなることを知る。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	畜産保健所からの情報をもとに伝染病予防について調べる。乳牛の体尺測定と体型の評価を行う。	教科書p100 教科書p190
2	養鶏の経営 乳牛の健康診断	10	日本の養鶏経営のおもな課題とその解決策を考えることができるか。乳牛の健康診断の仕方を理解できているか。	今後あるべき養鶏の姿について考察を深めることができるか。	乳牛の健康診断の仕方を正しく理解する。	主に課題と解決策について学ぼうと自らの学習を調整しようとしている。実際に乳牛の健康診断を行い、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析③座学・実習時の態度	日本の養鶏経営と解決策を調べる。乳牛の健康診断を行う。	教科書p105 教科書p191
3	まとめ	4	日本において養鶏・酪農が重要な食料資源であることを理解できているか。		座学および実習を通して畜産における飼育の知識を身につけている。	学習状況を把握し、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検②記述の分析	自己評価、2学期まとめ	